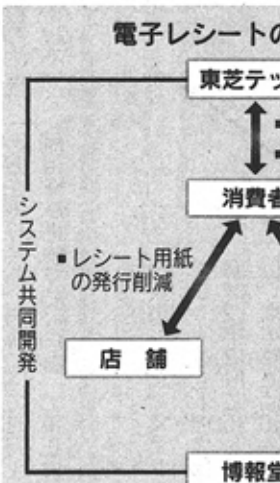


予定で、新たな収益モデルの構築を目指す。

東芝テックはスマホやタブレット(多機能携帯端末)の普及を受け、約2年前からスマートレジのシステム開発を進めてきた。現状では消費

電子レシ



される。

消費者は自分の好きな時に東芝テックのサーバーにアクセスし、直近の明細や履歴を確認する。同社はスマホのアプリ(応用ソフト)で人気の家計簿作成機能も提供す

新たな

目立つ形で強調する機能。促すポイントなどを訴え、販する(平田政善取締役)を備えているためだ。

例えばビール。メーカー「ただ飲めば」と語る。育成が課題。スマートレが購入者を対象にプレ各メーカーを呼び込むシートを業界標準のシステムキャンペーンを実施。営業活動では博報堂が協テムとして定着させる。力。POS端末で国内シとができるか。事業改革にアイコンを表示す。エアの約5割を握る東芝の試金石ともなる。

(山田健一)

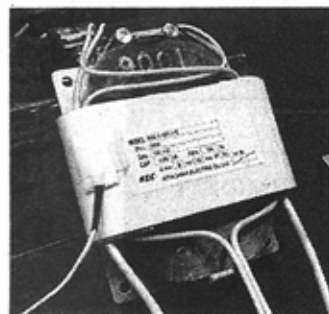
大型コイル、厚さ1.3

発熱での電力損失軽減

北川電機

電子部品を製造・販売する北川電機(東京都調布市、北川秀秋社長)は産業用機器に使う大型コイルの新製品を開発した。コイルのコア(芯)部分に従来とは異なる材料を使い厚さを従来に比べ3分の1に抑えたほか、発熱による電力損失も軽減したのが特徴。今夏をめどに受注活動を開始する。

フェライトよりも磁気特性が高く、加工しやすいファインメットをコアに使用した



パワコンや産業用機器向け

開発したのは「トランス」と呼ぶ大型コイル。太陽光発電や風力発電などに使うパワーコンディショナー(電力変換装置)に加え、レーザー加工機などの産業用機器に組み込んだ使用も見込む。

通常のトランスは銅線巻き付けのコアの部分に磁性材料のフェライトを使うタイプが多い。北川電機はフェライトより

も磁気特性が高く、加工しやすいファインメットをコアに使用した。

ファインメットを使うことでフェライトに比べて製品の厚さを薄くし、1.3mm程度の製品の場合、厚さは30%程度。フェライト製では使用時の温度が上昇することもあるが、ファインメットを使えばセ氏50度前後に



データは暗号化してバックアップする

に磁界を発生させることで、様々な役割を果たす。

電源部分などで電圧を適切な量に変換したり、異常動作を防ぐために絶縁したりできる。

ソニー、新SDカード

PCデータ自動でバックアップ

ソニーは18日、パソコン内のファイルを自動でバックアップするSDカードを開発したと発表した。この機能を備えたSDカードは世界で初めて

0〜300個程度まで対応できるという。

AV(音響・映像)機器向けのコイルなどでは、一部にファインメットをコアに使った製品が出て

いるが、産業機器向けの活用は進んでいないという。北川電機は製品投入で先行し、来年2億円の売り上げを目指す。北川電機はトランスの製造を専門に手がけている。普及が見込めるスマートグリッド(次世代送電網)など産業用途の製品ラインアップを広げる。

自動でデータを暗号化してバックアップする仕組み。8月20日に日本で発売し、世界各国にも販売地域を順次広げる。

開発したのは「バックアップSDカード」。フェ

半導体製造装置

BBレシオ1.4に上昇

メモリー各社、投資に動き

BBレシオは「1」を上回ると需要が供給を上回っていることを示す。受注額は前月比6.8%減の949億円、年明けから順調に1000億円前後まで回復してきた。台湾積体回路製造(TSMC)などの継続的な投資のほか、東芝などメモリー各社が増産体制に入ったのを受けたとみられる。

日本半導体製造装置協会(SEAJ)は18日、6月の日本製半導体製造装置のBBレシオ(3カ月移動平均の受注額を同・販売額で割った値、速報値)が1.40だったと発表した。4月から3カ月連続で上昇した。半導体受託生産会社(ファウンドリー)に加えメモリ各社も投資を再開始めたもよぶ。